



### 背景

現在の伊予市立伊予中学校の前を流れる大谷川は、上流からの土砂の流出が多く、山地から低平地に出ると川の流れが弱まって土砂を堆積させるため、天井川となっています。このため、氾濫頻度は高く、大谷川の上流と下流の人々が水防をめぐって対立し、堤防を切り崩したり、堤防の嵩上げをしたりしていました。この地域は大洲・新谷両藩に分けられており、大谷川の治水行政が統一的に行われていなかったため、この対立は増幅されました。

### アクセス

ウエルサンピア伊予公園前(大谷川)

- 伊予鉄郡中線新川駅より東へ直線距離 1 km
- 伊予市下三谷1761-1 (ウエルサンピア伊予)
- 緯度経度 北緯33度46分13秒, 東経132度42分51秒



江戸時代の中ごろ、明和元年(一七六四)の夏、村の農民は台風のことか心配になり始めました。精魂こめて育てた稲も、台風が来て洪水になれば台無しです。下三谷村のある者が言いました。「下の南黒田村の連中が堤防をこさえたそうさ。洪水になったら、今度はわし等の田んぼが浸からんだらうか」この言葉を聞いた村人たちは急に心配になり始めました。ある晩の寄り合いで話は決まりました。八月二日の午後三時、下三谷村の村民七、八〇〇人が大谷川の南黒田村の堤防の両岸に立ち並び、大声をあげながら堤防を壊し始めました。南黒田村の村民はなすすべもなく、ただ見守るばかりでした。

もともと、大谷・八反地両河川が出合う堂ノ口あたりは水はけが悪い土地でした。しかも、南黒田が新谷藩領、下三谷村が大洲領に分けられ、大谷川の治水政策が統一的に実施され得なかったところに禍根がありました。大洲領の上流の下三谷・北黒田村では嵩上げが行われましたが、新谷領の下流の南黒田村では、なんの対策も講じられませんでした。そのため南黒田は洪水があれば河水が氾濫し、人家や田地は大きな被害を受けていました。その被害を防ぐため、南黒田の人々は自力で堤防の嵩上げを行ったのです。しかし、先に述べたように自分たちが汗水ながして嵩上げた堤防は壊されてしまったため、下三谷村の理不尽さを藩でとりあげてもらおうよう、南黒田の百姓一統が庄屋・組頭に嘆願した記録が残っています。

その後、大洲藩は自領である砥部庄大南村と、新谷藩であった南黒田村との替地を幕府に願って、天明元年(一七八二)許され、翌二年南黒田村は大洲領となりました。こうして、天明四年頃には、大谷川流域の築堤も完成し、水論の禍根は絶たれることになりました。